

2018年度第2四半期 決算説明会資料①

〔経営目標に対する進捗〕

－ 2018年11月7日 －

京王電鉄株式会社

経営目標に対する進捗

- 第2四半期は対前年で増収増益、対計画では営業利益は微減となったが概ね計画通り
- 下期においても事業環境に大きな変動は見込まれないため、通期見通しは当初予想を据え置き
- 引き続き、2020年度の経営目標である営業利益率10%、ROA5%の達成を目指す

	2018年度 第2四半期実績	前年増減	計画差異	(参考) 2018年度予想	前年増減
営業収益	2,176億円	+87億円	+16億円	4,450億円	+103億円
営業利益	236億円	+9億円	△3億円	395億円	+9億円
営業利益率	10.9%	—	△0.2P	8.9%	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	151億円	+4億円	+2億円	257億円	+18億円
ROA	—	—	—	4.3%	+0.2P

(参考) 2018年度予想 EBITDA 765億円 (2017年度実績 : 748億円)

重点施策の取組み状況

- 中期経営計画の重点施策を着実に推進
- 下期以降も経済環境等の留意事項を注視しながら、引き続き既存事業の収益力強化と成長分野の収益基盤化を遂行

中期経営計画
基本方針

将来の人口減少期や大規模投資期を盤石な体制で迎えるため、
前半中計での戦略投資の収益化による成長を実現する

2018年度第2四半期業績の概況

下期以降の留意事項

(1) 既存事業の収益力強化

- ・鉄道事業の輸送人員は、エリア間競争の激化が見込まれる中雇用情勢の改善等もあり堅調に推移（京王ライナーは計画通り）
- ・流通業においては、ストア業とショッピングセンター事業の新店効果
- ・不動産業は販売業で増収

- ・輸送人員の動向
- ・燃料費価格上昇による経費増

- ・流通業の既存店の売上動向

- ・不動産、建設市況の動向

(2) 成長分野の収益基盤化

- ・京王プラザホテルなど、ホテル業は好調に推移（単価増等）
- ・京王プレッソインの前年度開業2店舗が収益に寄与

- ・インバウンド需要の動向
- ・新規開業ホテル（京都）の動向

重
点
施
策

投資案件

	2018年度	2019年度	2020年度	～
安全性・収益力の向上				
笹塚駅～仙川駅間 連続立体交差事業	用地取得および工事着手	用地取得および工事の推進		
安全性向上	新線新宿駅ホームドア設置	耐震補強、自然災害対策の推進 ホーム安全対策の推進		
収益力向上	座席指定列車の導入 (2018年2月)	座席指定列車運行拡大 訪日外国人旅行者受入環境の整備		
沿線活力の向上				
沿線拠点の活性化	<新宿駅周辺再開発>	将来に向けた検討の継続		
	<その他の駅開発>	下北沢高架下開発		
既存資産の 収益力向上	仙川駅ビル、京王府中SCの リニューアル	商業・オフィスなど事業特性に合わせた増収施策 キラリナ京王吉祥寺などのリニューアル		
沿線利用者向けサービスの 収益力の向上	サテライトオフィスの開業	子育て・シニア向け事業の検討・実施の継続 家事代行、移動販売などの拡大と収益力の向上		
成長分野の収益基盤化				
ホテル事業の拡大	京王プレミアホテル 京都烏丸五条 2018年11月開業予定	京王プレミアホテル 札幌 (仮称) 2019年夏開業予定	京王プレミアホテルの拡大を検討	
	RAKURO (ラクロ) 京都 開業 民泊事業の拡大	シェア型複合ホテルの拡大 (2020年度までに10号店開業)		
		高山グリーンホテル 2020年春改装開業予定	ミャンマーにおけるホテルおよび サービスアパートメント事業	
資本的支出	(713億円)	(712億円)	(573億円)	3カ年累計 (1,999億円)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。